



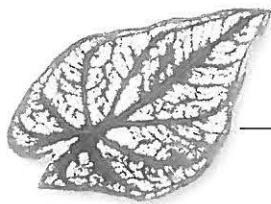
Title	遠野市助産院「ねっと・ゆりかご」東日本大震災の経験
Author(s)	菊地, 幸枝
Citation	目で見るWHO. 2012, 48, p. 8-10
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/86758
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

●健康を見守るIT技術



遠野市助産院「ねっと・ゆりかご」東日本大震災の経験

遠野市健康福祉部 健康福祉の里 福祉課 主任兼助産師 菊 池 幸 枝



Yukie KIKUCHI

1968年、岩手県生まれ。
1987年、県立遠野高校卒。
1991年、看護師免許取得。
1992年、助産師免許取得。
2001年、開業。保健指導での活動。
2007年、遠野市市民医療整備室。
現在、遠野市健康福祉部 健康福祉の里
福祉課
遠野市助産院 ねっと・ゆりかご
主任兼助産師として勤務

例年積もった雪が一度解け、その後降る雪が根雪となっていく遠野の冬。今年は12月末に降った雪がそのまま春まで残りそうです。太平洋沖で発生したマグニチュード9.0の大地震は雪解けを待つ2011年3月11日に起こりました。次々と起る大きな余震。まちの灯りはすべて消えカーラジオからは大きな津波が来ることを伝えていました。まさかその時、山一つ越えてすぐの沿岸に車や家、多くの命をも押し流してしまうような大きな津波が来ていたとは想像もできませんでした。



遠野市は広大な面積を持つ岩手県の中央に位置し、昔ながらの田園風景と柳田國男の著書「遠野物語」に綴られ

た民話が息づく人口3万人のまちです。藩政(南部氏)の頃より沿岸と内陸の交通の要所と位置づけられ、宮古市、大槌町、釜石市、大船渡市、陸前高田市など陸路で約1時間、ヘリコプターで15分の立地環境にあります。宮城県沖地震に備え2007年より「地震・津波災害における後方支援拠点設備構想」を進めていた当市では自衛隊・警察・消防・医療機関・住民との合同訓練などを実施していました。

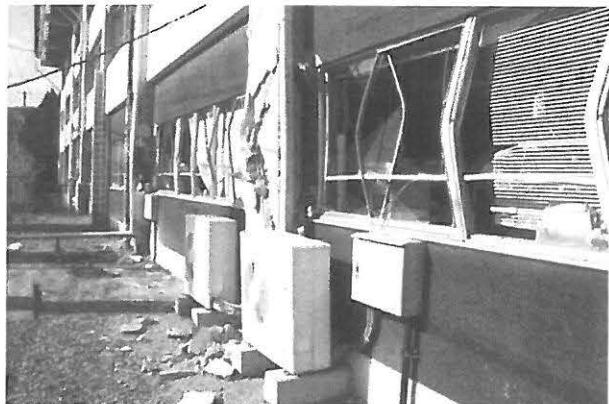


写真1 市役所庁舎が全壊

地震発生直後、市役所庁舎が全壊しながらも仮テント内に災害対策本部を設置。市民の安全確保を進め、その一方で自衛隊・警察・消防などが集結する動きに合わせ市内施設を開放。全国から遠野市内に集結した自衛隊・警察等は被災地へと支援を展開し始めました。今も続く後方支援の始まりでした。

2007年12月に開設された遠野市助産院「ねっと・ゆりかご」は、分娩の取扱いはありませんが、モバイル胎児心拍転送装置・Web版電子カルテ・インターネットTV会議システムなどITを使い、遠隔地のかかりつけ医と健診結果を共有する遠隔妊婦健診を行っています。また妊娠中の保健指導・教育、遠野市消防と緊急搬送の連携体制を整え、遠距離通院をしている妊産婦とその家族を支援しています。

2009年4月よりWeb版電子カルテに代わり、岩手県周産期医療情報システム「いーはとーぶ」(以下「いーはとーぶ」)に加入。岩手県内すべての産科医療機関と市町村間



写真2 余震が続く中、市役所庁舎前駐車場テント内に緊急対策本部を設置

をインターネット回線で結び、岩手医科大学附属病院におかれたサーバーに県内妊産婦の健診情報を集約。地域保健・医療関係者の綿密な連携を図り妊産婦をサポートするシステムです。

「いーはとーぶ」は釜石市、大船渡市、陸前高田市など沿岸でそのシステムの活用が先駆的に取り組まれています。県立大船渡病院副院長小笠原敏浩産婦人科医師の指導のもと、遠野市助産院での遠隔妊婦健診、岩手県立釜石病院での院内助産、地域周産期母子医療センターの岩手県立大船渡病院と、地域医療連携ネットワークが構築され、同時に地域連携として医療機関と釜石市・大槌町・大船渡市・陸前高田市・遠野市の市町村保健師とで、妊娠・産後の家庭訪問や産後うつなど早期に医療と保健がアプローチできる「妊婦見守りシステム」を展開しています。これらのシステムが「うまく動きだした」まさにその時震災が起きたのです。

助産院において13日夕方、固定電話・インターネット環境が復旧、直ちに予定日が近い市内妊産婦の安否を確認しました。明けて14日、お腹の赤ちゃんを心配する相談や、通院している病院の被災状況の確認、市内に避難してきた妊婦の受け入れなど次々と電話が入り始め、超音波検査・胎児心拍モニタリングを必要とする妊婦も来所し始めました。妊婦さんとその家族が語り始める地震と津波の体験を聴きながら、お腹の赤ちゃんが元気に動く姿に、一緒に涙し、母子手帳に「赤ちゃんとがんばりましょう。」と書き込むことしかできませんでした。

配線が断絶されてしまった沿岸の県立釜石病院・大船渡病院とは連絡がつかない状況の中、沿岸から避難してきた妊婦の対応など、「いーはとーぶ」運用に限界があり、「いーはとーぶ」開発者にお願いし、一時的に遠野市助産院を被災地妊婦かかりつけ医に登録、妊婦の了解を得て電子カルテを利用できるようになりました。これにより、予

定日を控えた妊婦を希望する内陸の病院へ紹介することや、沿岸の主治医に代わっての内陸医師によるCTGモニタリングの診断などを行う事ができました。

4月に入り、母子健康手帳再交付・予防接種・乳児健診に沿岸被災者が来所するようになりました。母子健康手帳発行は11件。海水と泥に汚れた母子健康手帳を1ページ1ページ破れないようにめくると、どのページに書かれていることも大切な記録であることに改めて気付かされました。

「母子健康手帳に子どもの事で忘れそうなことはすべて書いていた。まさか手帳を失くしてしまうとは思わないから子どもが生まれた時間まで覚えていなかった。」とか、「引き取った孫の予防接種を受けにきたが記録している母子健康手帳がない。何を受けたか覚えている母親もこの世にいない。」と言いながら、再発行された真っ白な母子健康手帳を手にして帰って行った方々。その中で「いーはとーぶ」に登録されていた妊婦に対しては、母子健康手帳に妊婦健診データを書き写し手渡すことができました。本来なら他市町村妊婦に対して、病院にしか残されていないデータを書き写し再発行することは不可能です。しかし今回「いーはとーぶ」があったからこそできることでした。安心安全な妊娠出産育児のために妊産婦をサポートする目的で運用され、平素は緊急搬送や産後うつなど数パーセントのハイリスク妊産婦が利用するシステムですが、すべての妊婦が登録し、健診結果を入力していたからこそデータが残り活用することができました。あの震災直後の混乱の中、健診結果が記入された母子健康手帳を再発行できたことは、すべてを失ったと感じている母親たちの支えになったと今でも信じています。

2011年3月11日私たちは地震と大津波を経験しました。「沿岸からの避難者受け入れ態勢を整えろ。」「被災地へおにぎりを届けろ。」「粉ミルク・オムツがない。」「透析の薬品がない。」「ガソリンがない。」次々と起こる事態。「赤ちゃんがお腹をすかせてはかわいそう。」と、次々寄せられる善意。遠方より「頼まれたので積めるだけ持ってきてました。」と余震が続く中届けていただいた支援物資。自分の事だけでも大変な時に自分より困っているだろうと多くの方から支援を頂きました。本当に人の温かさに助けられました。ご支援いただいた方々にこの場をお借りして感謝申し上げます。

最後に、遠野市と同じく産婦人科医師不在の地域で妊産婦を守るために尽力し、今回の津波被害にあわれた陸前高田市の保健師の方々のご冥福をお祈りいたします。貴の方のおかげで「いーはとーぶ」が小さな奇跡を起こしました。

そして、震災から10ヶ月。震災を経験したお腹の中の

赤ちゃんたちはみんな無事生まれ大きく育ち、そして笑うようになっています。この笑顔でお父さん・お母さん・兄弟たちが笑顔になります。みんなの笑顔が私たちを元気にしてくれています。春が訪れたら、土台だけとなっていた景色が、きっと新しい街並みに変わっていくでしょう。みんなの笑顔のために支援を続けていければと思います。

大槌町から遠野へ
平成23年8月14日生まれ
南浦大綱(ひろつな)くん



14万食のおにぎりにメッセージを添えて被災地に届ける。写真提供 遠野市

広告

For Your Life Care

プロアシストは、
センシング・ネットワーク・情報処理技術で
みなさまの健康に貢献してまいります。



「創造」すること、それが私たちの DNA

株式会社 プロアシスト

Proassist 〒541-0043 大阪市中央区高麗橋 2-3-9 星和高麗橋ビル 1 階
TEL : 06-6231-7230 FAX : 06-6231-7261
URL : <http://www.proassist.co.jp>